



リニレイ HYGIENIC POWERMOP ハイジエニックパワーモップ



業務用マイクロスクラバー

取扱説明書



目次

目次	3
この説明書で使われている記号について	5
この取扱説明書の目的と内容	5
この説明書が対象としている方	5
取扱説明書保管のお願い	5
機器の受領時に確認頂きたいこと	5
この説明書の使い方	5
機体の識別のために	6
機器の仕様	6
機器の使用目的	6
安全上のご注意	6
シリアル番号プレートの場所	6
おもな仕様	7
安全に関する一般条項	8
本機に表示されているシンボルマークについて	11
本機の扱いについて	11
梱包品の扱いについて	11
開梱するには	11
本機の運び方	12
本機の構成部品	12
本機のおもな構成部品	12
洗浄液タンクの構成	13
汚水回収タンクの構成	13
バキュームカバーの構成	13
ステアリングコラムの構成	13
ハンドルバーコントロール	14
充電器の構成と表示	14
安全な取扱いのために	14
バッテリーのタイプ	15
バッテリーの保守と廃棄	15
本機にバッテリーを挿入する	15
本機からバッテリーを取り出す	16
バッテリーを充電する	16
コントロールハンドルバー高さの調整	18
バッテリー充電レベル計	18
稼働時間計（アワーメーター）	18

洗浄液タンクに水を入れる.....	18
洗浄液について.....	20
ブラシを装着する.....	20
洗浄作業の準備.....	20
洗浄作業を行う.....	21
洗浄作業を始める.....	21
洗浄のみを行う場合.....	22
洗浄液の調整.....	23
オーバーフロー防止機構について.....	23
洗浄作業を終了する.....	24
メンテナンス.....	25
推奨されるメンテナンス.....	25
汚水回収タンクの点検と清掃.....	26
バキュームカバールの点検と清掃.....	27
ブラシの点検と清掃.....	28
スクイジーボディの点検と清掃.....	28
バキュームホースの点検と清掃.....	29
洗浄液フィルターの点検と清掃.....	30
洗浄液タンクの点検と清掃.....	30
本機の廃棄について.....	31
トラブルシューティング.....	32
ブラシの種類について（その他の消耗品・交換部品）.....	34
EC 適合の宣誓.....	34

* 文中では本機の名称「パワーモップ」をVispaXSと表記しています。

* 本機での洗浄はブラシの使用が標準となります。バット（OP）での洗浄 作業を行う場合は、吸水性能等に影響がある場合がございます。事前に洗浄作業への影響を確認願います。

この説明書の記載によらず、弊社はいつでも本機の構成要素、詳細、アクセサリ供給について、改善のため、あるいは製造上、商業上の必要により、いつでも必要なときに変更できるものとします。この説明書の記載、イラストの転載は、部分的であっても法律により禁じられています。

弊社は、技術的、供給の都合によりいかなる変更も行うことができます。掲載されているイラストはイメージで、実際の機器、また設計と異なることがあります。

この説明書で使われている記号について



開かれた本に“i”のマーク:

取扱説明書を参照して下さいの記号



開かれた本のマーク:

マシンを使用する前に作業者が取扱説明書を読んで下さいの記号



屋内のマーク:

この記号のある作業は、常に乾燥した屋内で行って下さいの記号



警告のマーク:

この記号のある箇所は、作業者と機器の安全のため、説明書を注意深く読み、指示に従って下さいの記号



保護グローブのマーク:

手のケガの防止のため、必ず保護グローブを着けて下さいの記号



梱包運搬時のマーク:

梱包されたマシンの運搬時に諸規則に沿った適切な運搬機器を用いて下さいの記号



爆発の危険のマーク:

取扱説明書の指示通りに扱わないと、バッテリーが爆発する危険があるという記号

この取扱説明書の目的と内容

この説明書の目的は、お客様にこの機器を最も安全に、自律的で適切に使用して頂くための情報を提供することにあります。技術的、安全面、作業時の扱い、使用できない状況、保守、交換用パーツおよび廃棄について記載してありますので、作業者およびサービスエンジニアはこの説明書の指示を作業の

必ず読んで下さい。指示の内容の正しい解釈に疑問のあるときは、弊社あるいはサービスエンジニアまでお問い合わせ下さい。

この説明書が対象としている方

この説明書は作業者の方、および保守作業にあたるサービスエンジニアを対象としているので、作業者はサービスエンジニアが行う作業は行わないで下さい。

弊社は、この禁止事項を守らないことによって生じた損害に責任を負いません。

取扱説明書 保管のお願い

この説明書は、汚れないようプラスチックケースなどに入れ、機器の側に置いていつでも読めるように保管して下さい。

機器の受領時に確認頂きたいこと

機器が配送されたら、ただちに配送書類に記載されているものがすべて揃っているか確認して下さい。また、輸送のあいだに機器が損傷していないか確認して下さい。

万一損傷がある場合、輸送業者とともに状況を確認し、弊社までご連絡下さい。迅速にご連絡頂くことにより、足りない物品の発送、また損傷の補償が速やかに進みます。

この説明書の使い方

いかなる機器も、取扱説明書の記載に沿った使用法および保守を行うことにより適切かつ効果的に稼働します。この説明書をよく読み、機器の使用中に疑問を感じた際も読み返して下さい。

また、弊社にご連絡頂ければ何なりとお答え致します。

機体の識別のために

サービスを要請される際、また交換用パーツの手配の際は、シリアル番号プレート
の機種名とシリアル番号をお伝え頂くとスムーズです。

機器の仕様

Vispa XS はディスクブラシと洗浄液の作用により、様々な種類の床材、汚
れに対応する床洗浄機です。前進しながら汚れを取り、洗浄液の残水も回
収できます。

この機器は床洗浄のためにのみ使用して下さい。

機器の使用目的

この床洗浄機は、商業施設のコンパクトなスペース、マンション、倉庫などの平
滑な床面を、安全な状態で、よく説明書を読んで理解した作業者が洗浄す
るための機器です。カーペットやじゅうたんの洗浄には使えません。屋内、または
屋根のあるスペース専用で、屋外では使用できません。

 **注意:** この機器は雨や水しぶきの当たる場所で使用できません

危険な粉体や可燃性の液体の吸引、防爆環境での使用はできず、人員や
物品の輸送にも使えません。

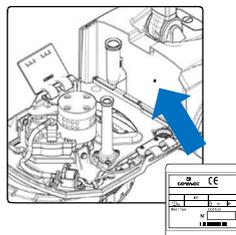
安全上のご注意

事故の防止には作業者の協力が不可欠です。いかなる事故防止プログラム
も、機器の取扱いに直接の責任がある作業者の協力なしには有効ではありま
せん。労働災害の多くは、安全の基本的ルールが作業場所や移動中に守ら
れないことで発生します。

注意を怠らない作業こそ事故防止プログラムでもっとも重要です。

シリアル番号プレートの場所

シリアル番号プレートは、右のイラストの位置にあります。記載されているのは
機器のおもな仕様、シリアル番号です。サービスを依頼される際や交換部品を
発注される際に、機種名とシリアル番号をおっしゃるとスムーズな手配が可能で
す。



おもな仕様	単位	Vispa XS
洗浄幅	mm	280
スクイジー幅	mm	325
最大洗浄面積 (h)	m ² /h	560
登坂角 (満水時)	%	2
定格出力	W	255
ディスクブラシ	個数 / 直径 mm	1 / 280
ブラシモーター定格	V/W	36 / 90
ブラシ回転数	rpm	150
接地圧	kg	10
バキュームモーター定格	V/W	36 / 150
バキューム吸引力	mbar	22.5
バキューム吸引力 (エコモード)	mbar	15
後輪ホイール (個数 / (直径 / 幅))	個数 / (直径 mm / mm)	2 / (160 / 30)
洗浄液タンク	L	3
汚水回収タンク	L	3.6
長さ	mm	555
長さ (ハンドルバー倒した位置)	mm	895
高さ (本体、ハンドルバー倒した位置)	mm	290
ハンドルバー高さ (ハンドルバー立てた位置)	mm	1,050
高さ (ハンドルバー倒した位置)	mm	350
幅 (スクイジー巾含む)	mm	375
バッテリー電圧	V	36.5
バッテリー重量	kg	1.4
重量 (本体 + ブラシ + スクイジー)	kg	18
重量 (本体 + バッテリー + ブラシ + スクイジー)	kg	20
重量 (作業時) (本体 + バッテリー + ブラシ + 洗浄液 + スクイジー)	kg	23
騒音レベル (ISO 11201) - L pA	dB (A)	<70
測定誤差 KpA	dB (A)	1.5
振動レベル (ISO 5349)	m/s ²	<2.5

* 本機で床面を洗浄する際は、標準仕様の「ブラシ」を推奨いたします。
オプションのバットでの洗浄につきましては、スクイジー吸水性能等に影響がある場合がございます。

作業者の安全と機器の損害を防止するために下記の条項を守って使用して下さい。

警告:

- 機器のシリアル番号ラベルの事項をよく読んで下さい。ラベルを覆ったりせず、汚れて読めない場合は貼り替えて下さい
- 機器は通行人などが手を触れない場所に保管して下さい
- 機器の使用は、取扱説明書をよく読み、理解した方に限定して下さい
- 1度以上の傾斜のある場所で機器を使用しないで下さい
- 表面が凸凹していたり、荒れたフロアでこの機器を使用しないで下さい
- 充電器コードに損傷がある場合は使用せず、弊社サービスに連絡して下さい
- 異常を感じた場合は、機器の後部からバッテリーを外して下さい。（説明書「バッテリーを外す」参照）
- 保守作業の際は必ず電源スイッチをOFFにし、バッテリーを外して行って下さい
- 子供がこの機器で遊ばないよう充分注意して下さい
- 機器を使用する際は、周囲の安全に充分注意し、通行人、とくに子供や身体の不自由な方に注意して下さい
- 純正ブラシのみを使用して下さい。説明書「ブラシの選択と使用」参照ほかのブラシの使用は、機器の安全を低下させる恐れがあります

- この機器は、シリアル番号プレートに表記された電圧でのみ使用できます
- 作業場所に機器を置く場合、ひとりでは動かないよう万全の配慮が必要です



洗浄液タンクあるいは汚水回収タンクに水が入っている場合、機器を立てて運んだり、立て掛けしないで下さい。

警告:

- 機器を屋外に放置したり、雨に濡れる場所で保管しないで下さい
- 機器は屋内の-25°C~55°Cの温度範囲の場所で保管して下さい
- 使用時の環境は、0°C~40°C、相対湿度は30~95%で使用して下さい
- 充電器コードを差すコンセントは正しくアースされている必要があります
- この機器は人体に有害な振動は発生させません
- ガス、爆発物、可燃性液体や粉体、希釈しない酸や溶液、ガソリン、シンナー、燃料（バキュームのエアと混合すると爆発性の気体になります）アセトン、アルミニウムまたはマグネシウム粉などを絶対に吸引しないで下さい。これらの物質はまた、機器の構成部品を腐食させることもあります
- この機器は防爆仕様でないので、ガソリンスタンドなどの防爆環境での使用はできません
- この機器の上に洗剤などの液体のコンテナを載せて使うことはできません
- 火災の場合、粉体消火器を使用し水は使わないで下さい

- 洗浄作業のスピードは周囲の状況に合わせて安全を確保して下さい
- その場でブラシ回転させると床にダメージを与える恐れがあるので避けてください
- ものが落ちる恐れがあるので、棚や足場に強く当てないで下さい。作業者は、ヘルメット、手袋、ゴーグルなどその場に合った保護具を着用して下さい
- 機器が正常に動かないとき、充電など必要な保守メンテナンスが行われているか確認して下さい。そうでない場合、弊社サービスにご連絡下さい
- 部品交換が必要なときは、必ず弊社にご連絡の上、純正部品を使用して下さい
- 保守・修理作業が終わったらバッテリーを接続して下さい
- 年に一度は弊社サービスの点検を受けることを推奨します
- 消耗品や機器本体を廃棄する際は、その地域の諸規則に従い、産業廃棄物として適正に処分して下さい。なお、この機器の構成部品はすべてリサイクル可能な素材でできています

本機に表示されているシンボルマークについて



メインスイッチのシンボル:
本体後ろ中央に位置する電源スイッチのシンボル



バッテリー挿入口のシンボル:
本体後ろに位置するバッテリー挿入口のシンボル



バッテリー接続オフシンボル:
本体後ろに位置するバッテリーを外す際にストップバーを上げる方向を指すシンボル



持運びポイントシンボル:
本体前と後ろに位置する持運びポイントを指すシンボル



スクイジー作動ポジションシンボル:
本体後ろに位置するノブで、スクイジーを持ち上げる方向を示すシンボル



スクイジーホールドポジション:
本体後ろに位置するノブで、クイジーを下げる方向を示すシンボル



タンク排水のシンボル:
タンクから排水するためキャップを外す位置にある



警告 - ヤケトの危険:
表面が熱くなりヤケトの危険がある



警告シンボル - 水が入っているときに機器を立てないこと
タンクに水が入っているときに機器を立てないシンボル

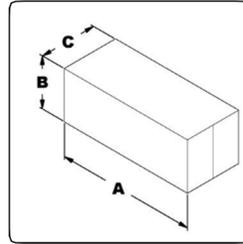
本機の扱いについて

梱包品の扱いについて

プラスチック袋、ホッチキス針など危険なものがあるので梱包品は子供や障害のある方の手に触れないようにして下さい。

梱包全体の重量は25kg（機器 + 梱包）で、梱包のサイズは下記の表のとおりです。

	単位	Vispa XS
A	cm	94
B	cm	35
C	cm	39



開梱するには

本機は特別な包装をされているので、以下の要領で外して下さい：

1. 外装箱を床に置く



注意: 外装箱の絵文字の指示に従って下さい

2. 外装箱を開く



注意: 手のケガを防ぐため手袋など適切な保護具を着けて下さい

3. アクセサリーの入った段ボールコンテナを取り出す

4. ハンドルを持って本機を取り出す



注意: コントロールハンドルバーを持って持ち上げないで下さい



注意: 外装箱を保管しておく、将来輸送する際に便利です

本機の運び方

本機の安全な運搬のために以下の要領を守って下さい:

1. 本機が安全な状態であることを確認するステップを守って下さい
電源を切り、タンクに水がないか確認して下さい
2. ステアリングコラムのストップレバー（下図 1 の①）を引き、コントロールバーを水平に倒す（図 2）

！ 注意: 本機がふいに動かないようにハンドルバーを保つこと

3. ハンドルバーが水平になったら、レバー①を離し固定する

この状態で本機を安全に運べます



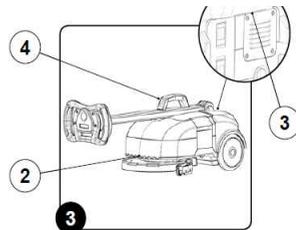
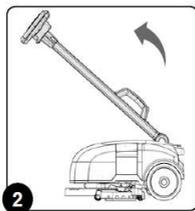
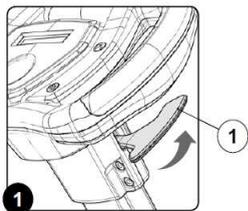
注意: 本機を持ち上げるときは、本機の前と後ろ（図 3 の②と③）の取っ手か、ステアリングコラムのハンドル④を握って下さい



注意: 本機を運ぶ際、保護手袋の着用を推奨します



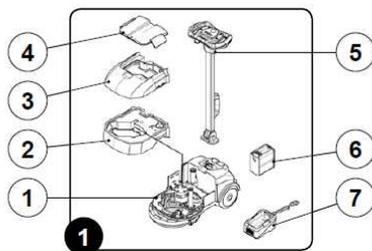
注意: 本機を自動車で運ぶ場合、ベルトで確実に固定して下さい



本機の構成部品

本機の基本構成は下記の通りです:

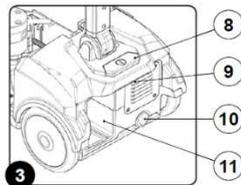
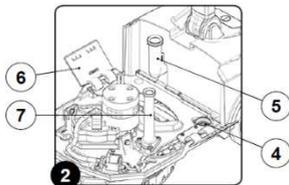
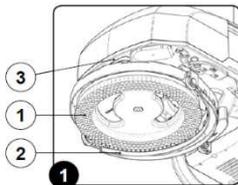
1. マシン本体
2. 洗浄液タンクユニット
3. 汚水回収タンクユニット
4. パキュームカバー
5. コントロールハンドルバー
6. バッテリー
7. 充電器



本機のおもな構成部品

本機のおもな構成部品は下記の通りです:

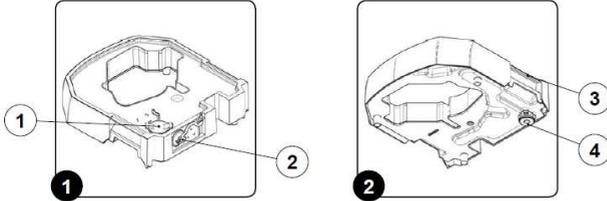
1. ディスクブラシ
2. スワイジーボディ
3. フロントリフティングハンドル
4. 洗浄液フィルター
5. パキュームモーター吸気口
6. タンクストップレバー
7. パキュームホースダクト
8. 電源スイッチ
9. リアリフティングハンドル
10. スワイジーボディストップブ
11. バッテリーコンパートメント



洗浄液タンクの構成

洗浄液タンクの構成は以下の通りです:

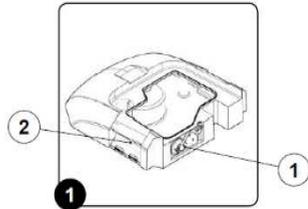
1. 給水口キャップ
2. 排水口キャップ
3. タンクリフティングハンドル
4. タンクセーティバルブ



汚水回収タンクの構成

汚水回収タンクの構成は下記の通りです:

1. 排水キャップ
2. タンクリフティングハンドル

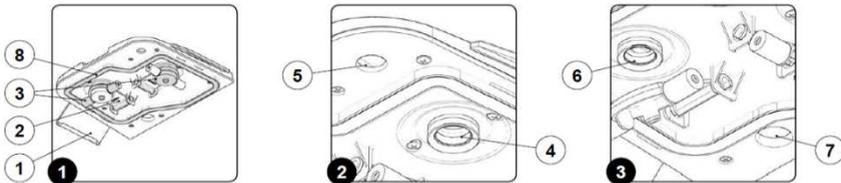


バキュームカバーの構成

バキュームカバーの構成は下記の通りです:

1. バキュームカバーストップレバー
2. フローティングサポート
3. フロート

4. 汚水流入口
5. 汚水排水口
6. バキュームモーター吸気口
7. バキュームモーター排気口
8. カバーシール

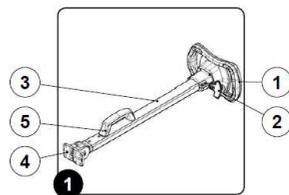


ステアリングコラムの構成

ステアリングコラムコントロールベースの構成は下記の通りです:

1. コントロールハンドルバー
2. ステアリングコラムコントロールストップレバー
3. ステアリングコラムコントロール

4. ステアリングコラムコントロール支点
5. リフティングハンドル

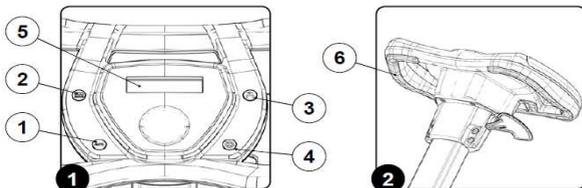


ハンドルバーコントロールの構成

ハンドルバーコントロールの構成は下記の通りです：

1. 「オートマッチック」モードボタン
2. 「エコモード」ボタン
3. 「洗浄液流量」調整ボタン

4. 「バキュームモーター」作動・停止ボタン
5. 液晶ディスプレイ
6. デッドマンスレバー

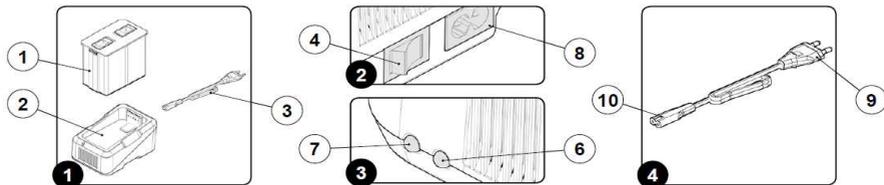


充電器の構成と表示

充電器ユニットの構成は下記の通りです：

1. バッテリー
2. 充電器
3. 充電器電源コード
4. 充電器電源スイッチ
5. バッテリーストップレバー

6. 緑 LED - 充電器へ通電を示す
7. 赤 LED - バッテリーに充電していることを示す
8. 充電器ソケット
9. 電源プラグ
10. 充電器接続プラグ



安全な取扱いのために

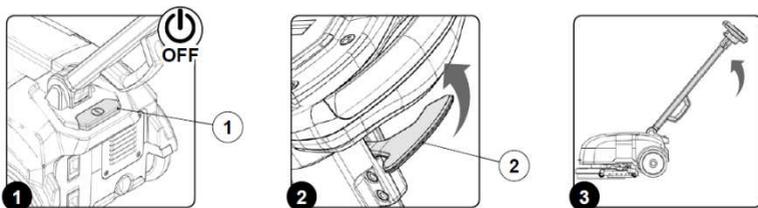
保守メンテナンス時の本機の安全な取扱いについて以下に説明します：

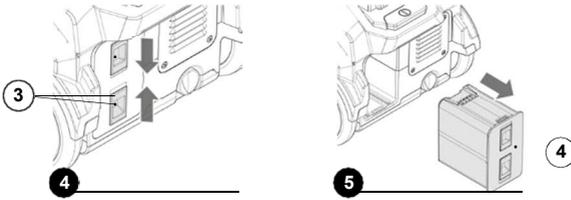
1. 電源スイッチを切る (図 1 ①)
2. 汚水回収タンクが空であることを確認し、汚水があれば完全に排水する
3. 洗浄水タンクが空であることを確認し、水が入っていたら完全に排水する
4. ステアリングコラムコントロールレバー②を引き、ハンドルバーを垂直位置で固定

注意：ハンドルバーを上下する際に本機に足を掛けないこと

5. バッテリー④を引き出すには、ストップレバー上下③をつまんでバッテリーを引き出す (図4③)

注意：屋内の乾燥した平らな床の上で行うこと





バッテリーのタイプ

本機は同梱されていたリチウムイオンバッテリー以外使用できません。バッテリー交換時も弊社より供給する純正バッテリーをご使用下さい。バッテリーコンパートメントには電圧36.5Vのバッテリー1個のみ入ります。

バッテリーの保守と廃棄

バッテリーの保守と充電にあたっては、バッテリーメーカーの取扱説明書に従って下さい。リチウムイオンバッテリーを廃棄する際は、その地域の諸規則に従って廃棄、またはリサイクルして下さい。

バッテリーの正しいメンテナンス方法は以下の通りです：

- バッテリーパックをいかなる理由でも開けしないで下さい。損傷したバッテリーから漏れた液体に触れないで下さい。誤って触れた場合、または目に入った場合、大量の水で流し、専門医の診療を受けて下さい
- バッテリーを濡らしたり、汚したりしないで下さい
- 40℃を超える高温の場所に放置したり、直射日光、火炎にさらさないで下さい。
- ショートを防ぐため金属に触れないようにして下さい
- バッテリーを火の中に投げしないで下さい
- バッテリーは産業廃棄物としてその地域の諸規則に沿った方法で廃棄して下さい

バッテリー充電の際は以下の方法に従って下さい：

- 充電は室温（10～40℃）で行い、本機専用の充電器を用いること
- 水濡れしたり、損傷したバッテリーを充電しないこと
- リチウムイオンバッテリーは爆発の危険性もあるので、必ず本機の専用充電器を使用すること
- 充電器のプレートに記載の電圧とバッテリーの電圧が一致する必要がある

- 充電器は防爆でないので、防爆環境で使用しないで下さい
- ショートを防ぐため充電器が金属に触れないようにして下さい
- 充電できない一次電池を絶対に充電しないで下さい
- 膨張、水濡れ、損傷したバッテリーを充電しないで下さい
- 充電の前に必ず充電器、バッテリーに損傷がないか確認し、損傷がある場合は弊社サービスにより修理を受けて下さい
- 電源コードに損傷がある場合、直ちに交換して下さい
- 電源コードのプラグ、接続部にホコリが溜らぬよう注意し、損傷したプラグは使用しないで下さい
- 充電器を開けたり、解体しないで下さい
- 充電器を電流計で測定しないで下さい
- バッテリーを本機に挿入する際は、汚れ、水分を除いて下さい
- 充電する際も充電器のホルダーの汚れや水分に注意して下さい



注意：充電器は屋内でのみ使用すること



注意：使用・保守前に取扱説明書を読むこと



注意：バッテリーの扱いを誤ると、爆発、火災の危険があり、電解液がやけどや什器に損害を与えることがあります

注意：バッテリーが寿命となったり、損傷で廃棄する際は、その地域の諸規則に沿い、産業廃棄物として処理する必要があります

本機にバッテリーを挿入する

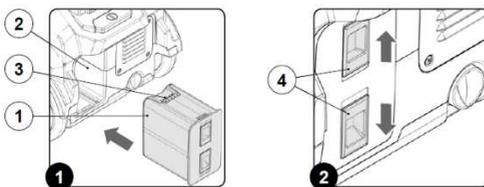
本機にバッテリーを挿入する手順は以下の通りです：

1. 本機が安全な状態であることを確認するステップを守って下さい P14 「安全な取扱いのために」を参照
2. バッテリー①を、本機後ろ左側のコンパートメント②に挿入する バッテリーの電極を上向きに挿入する（図1③）

3. ストップレバーがカチッと止まるまでバッテリーを押し込む（図2）



注意：バッテリーを挿入する際、コントロールハンドルは垂直に立て本機が動かないようにして下さい

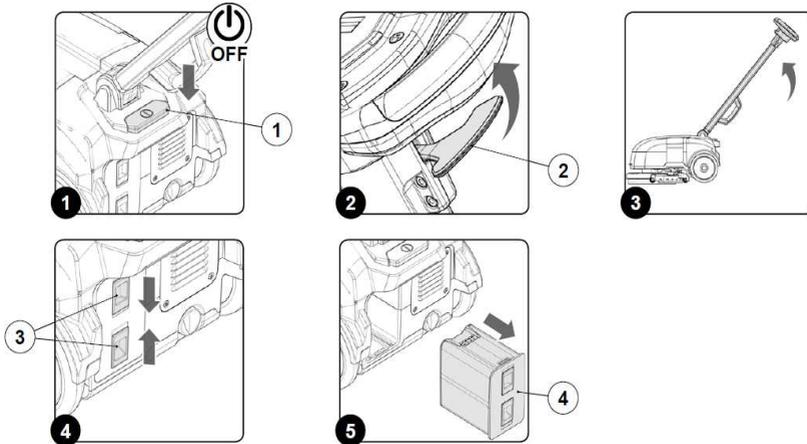


本機からバッテリーを取り出す

本機からバッテリーを取り出す:

1. 電源スイッチで電源を切る (図1①)
2. ハンドルバーを垂直の位置で固定する (図1-3)

- 注意:** ハンドルバーを上下する際に本機に足を掛けないこと
3. バッテリー④を取り出すには、ストップバー (図4③) をつまんで引き出す

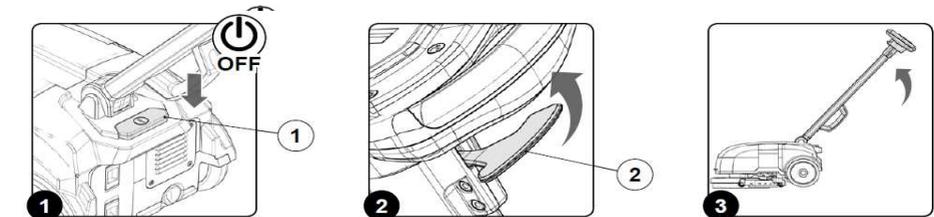


バッテリーを充電する

本機を最初に使用するときは必ずバッテリーを充電して下さい。充電は下記の要領で行って下さい:

1. 本機を充電スペースに移動する
2. 電源を切る (図①)
3. ハンドルバーを垂直にしレバーを離して固定する (図2-3)

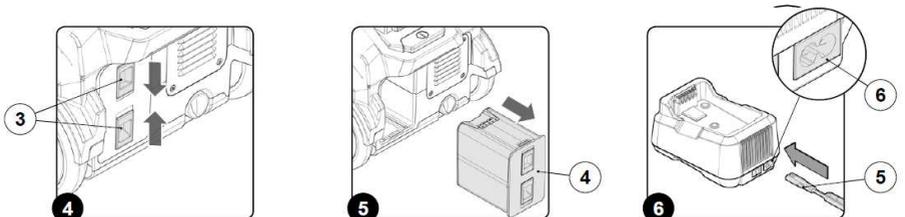
- 注意:** ハンドルバーを上下する際に本機に足を掛けないこと



4. ハンドルバーを垂直にしたら、ストップバー③をつまんでバッテリーを引き出す (図4-5)

- 注意:** バッテリー充電は換気されている室内で行って下さい

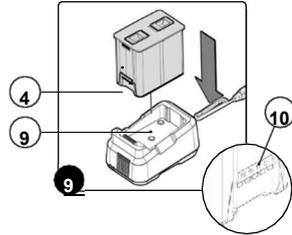
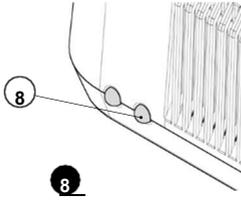
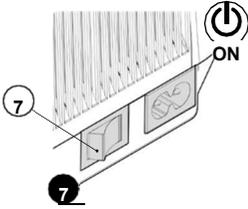
5. 充電器の電源コードのプラグ⑤を充電器につなぐ (図⑥)



6. 充電器の電源コードをコンセントにつなぐ

! 注意: プラグをコンセントに接続する前に、電源を確認して下さい
本機の充電器はAC100V50-60Hz専用です

7. 充電器の電源スイッチを「I」の位置にして充電を開始（図7）



! 警告: 充電器に通電されると緑 LED が点灯（図8）し、充電器の回路に通電されていることを示す

! 注意: バッテリーを充電器に挿す前に充電器のホルダー部に水分やゴミのないことを確認すること

8. バッテリー④を電極⑨が正しく当たるように充電器に差し込む（図9）

! 注意: バッテリーを差し込む際、力を入れ過ぎないこと

! 注意: 充電前に充電器の取扱説明書をよく読むこと

! 注意: バッテリーを充電器に差し込むと、赤 LED ⑩が点灯し、充電していることを示す（図10）

9. そのまま充電サイクルが完了するまで充電する

! 警告: 赤 LED ⑩は充電が完了するまで点灯している

! 警告: この状態で置いておけば、充電器の設定により赤 LED が点灯し、随時充電を継続する

! 警告: 赤 LED ⑩の点灯は充電レベルを示すものではありません

! 警告: 充電中にバッテリーは熱くなります

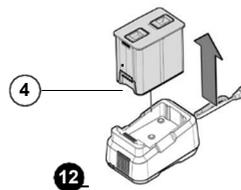
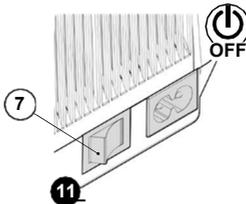
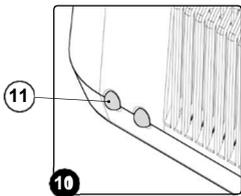
! 警告: いつよりもバッテリーが熱くなったり、煙や焼ける匂いがした場合は直ちに充電をやめて弊社にご連絡下さい

10. 充電が終わると、充電器の電源スイッチ⑦が「O」の位置に戻り、充電を完了します（図11）

11. 充電器の電源コードのプラグをコンセントから外して下さい

! 注意: 電源コードは必ずプラグを持って抜き差しすること

12. バッテリー④を充電器から持ち上げて外す（図12）



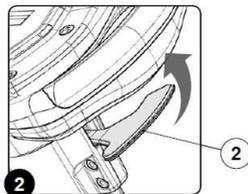
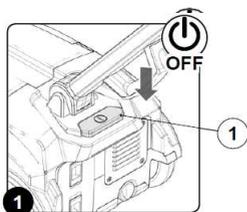
コントロールハンドルバーの高さ調整

コントロールハンドルバーを正しく調整すると、洗浄作業がより容易に行えます。 **！**

高さの調整は以下の要領で行います：

注意：ハンドルバーを上下する際に本機に足を掛けないこと

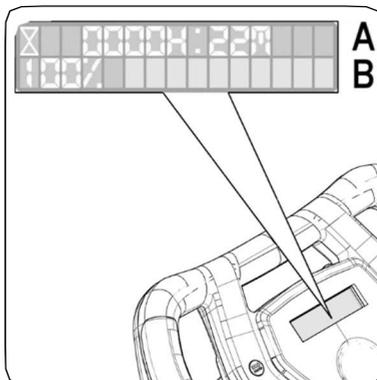
1. 電源スイッチを切る（図1）
2. ステアリングコラムコントロールのストップレバー（図2②）を引いて高さを調整し、無理のない姿勢の高さでレバーを離して固定する（図3）



バッテリー充電レベル計

操作盤に液晶表示板があり、下段にバッテリーの充電状態が示されます⑥。残容量は%表示と四角い表示の2種類で表され、四角い表示1つが10%を示します。

バッテリー残量が一定以下になると、ブラシモーターが停止しますが、バキュームモーターは一定時間稼働するので吸水作業は行うことができます。



稼働時間計（アワーメーター）

液晶表示板の上段は稼働時間を時（H）・分（M）で計測した表示があります⑦。デッドマズレバーを握ると表示板の砂時計マークが点滅し稼働時間を記録します。

注意：砂時計マークの点滅は、アワーメーターの計測だけを示します

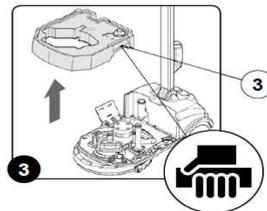
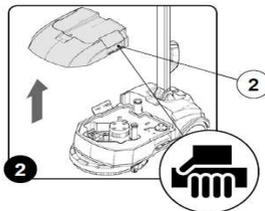
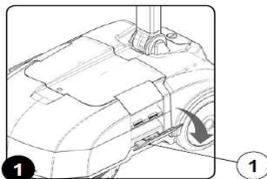
洗浄液タンクに水を入れる

洗浄液タンクに水を入れる方法は下記の通りです：

P14「安全な取扱いのために」を参照

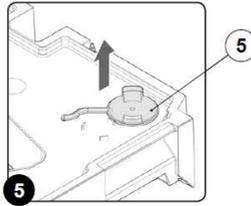
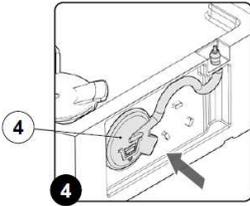
1. 本機を給水場所に運ぶ
2. 本機が安全な状態であることを確認するステップを守って下さい

3. 両側のタンクストップレバー（図1①）を外側に外す
4. 汚水回収タンクを②の取手を持って上げて外し（図2）静かに床に置く
5. 洗浄液タンクを③のハンドルで持ち上げ、静かに床に置く



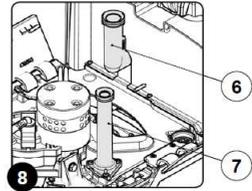
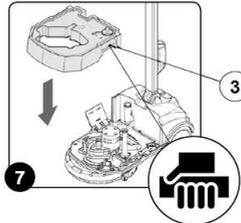
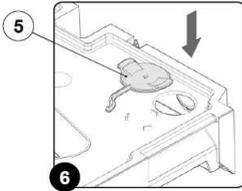
6. 洗浄液タンクの排水キャップ ④が閉まっているか確認する (図4)
 7. 洗浄液給水キャップ⑤を外す (図5)

8. 水道水 (温度範囲10~50℃) を入れる



9. 洗剤を入れる (「洗浄液」の項参照)
 10. 洗浄液タンクのキャップを (図5⑤) 閉める
注意: 洗浄液タンクを満水にするたびに、汚水回収タンクも空にする習慣をつけると实际的です

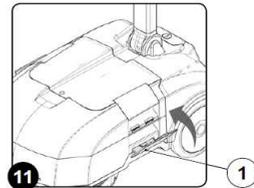
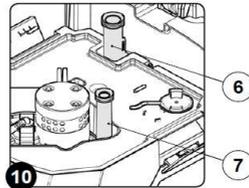
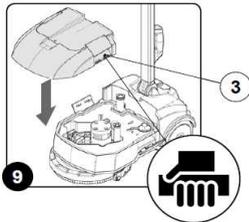
11. (図7③) の取っ手を持って本機に洗浄液タンクを取付ける (図8) のパキュムモーターのパキュムホースインレット⑥とスクイジーボディのパキュムホース⑦を傷つけないよう注意する



13. 洗浄液タンクの上に汚水回収タンクを載せる (図8⑥) のパキュムホースインレットと⑦のスクイジーボディパキュムホースを傷つけないよう注意、タンク③の取っ手を持ってはめ込む

- 注意:** 汚水回収タンクをはめ込む前に、排水キャップが閉まっているか確認すること

13. (図11①) のタンクストップレバーを持ち上げてタンクを固定する



洗浄液について

液体洗剤の使用、希釈は洗剤メーカーラベルの表示に従って下さい

漂白剤、塩素、臭素、ホルムアルデヒド、ミネラル溶液を含むものは使用しないで下さい

！、注意： 多量の泡が発生するとバキュームモーターが吸い込んで故障の原因になるので、洗剤の量は最小にして下さい

／！、注意： 洗剤を扱う際は、保護手袋を着用して下さい

！、注意： 台所用洗剤、溶液などは使用せず、床洗浄機に適したものを使用して下さい
酸性、アルカリの洗剤はpHが4～10の範囲であれば使用できます

／！、注意： つねに低発泡性の洗剤を使用すること
泡の発生を抑えるため、少量の消泡剤を汚水回収タンクに入れておくことも有効です（酸は使用しないこと）

ブラシを装着する

ブラシやパッドホルダーを本機に装着する要領は下記の通りです：

1. 装着する場所に本機を移動する
2. 電源を切り、タンクが空であることを確認して下さい

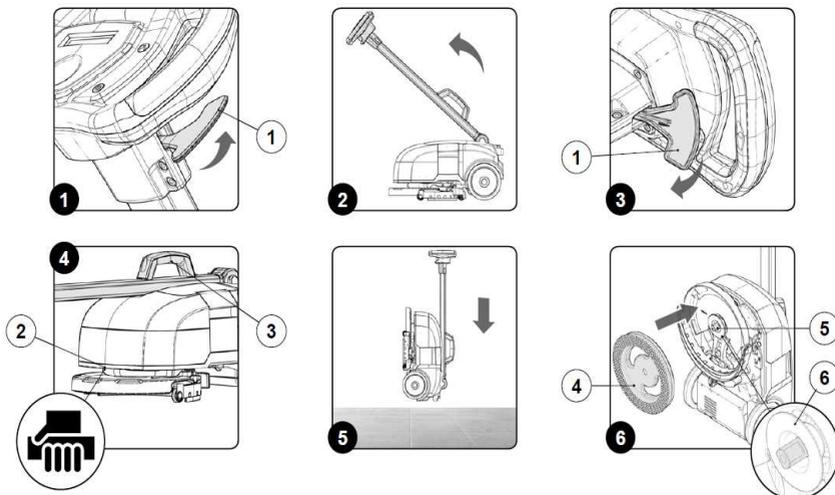
3. ステアリングコラムストップバーを引いてハンドルバーを水平に倒し、固定する（図1-2-3）

／！、注意： この操作を行う際、誤って本機を動かさないようにする



洗浄液タンクや汚水回収タンクに水が入った状態で、本機を立てないこと

4. 本機を立てる（図5）本機前縁の取っ手を持つと立てやすい
5. （図6）ブラシ④を本機の固定ピン⑤にはめ、⑥のフランジにパッド台やブラシが突き当たるまで押し込む



洗浄作業の準備

作業前の準備は下記の手順で行って下さい：

2. 本機が安全な状態であることを確認するステップを守って下さい
P14「[安全な取扱いのために](#)」を参照

！、注意： 作業前にはいつもバッテリー満充電して下さい

1. ブラシ、パッド、スクイジーラバーの摩耗など消耗品の状態を確認し、各部に異常がないか確認して下さい

5. 洗浄作業に見合った量の洗浄液をタンクに入れて下さい

6. 充電したバッテリーをホルダーコンパートメントに挿入して下さい

洗浄作業を行う

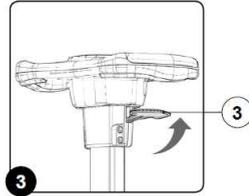
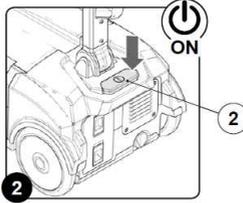
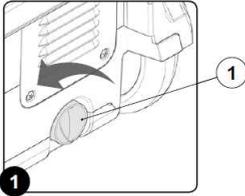
洗浄作業を始める

洗浄作業の前に下記を点検して下さい:

4. ステアリングコラムコントロールレバーを引いて、作業しやすい高さにコラムを調整 (図3)

1. 充電、洗浄水給水、洗剤希釈など作業前の準備と確認を行う
2. スクイジーが洗浄する床面に接しているか確認し、接していないときは (図1①) のノブを反時計回りに回して調整する
3. 電源スイッチ (図2②) を入れると操作盤のディスプレイが点灯

注意: この操作の際、本機に足を掛けないこと



5. 操作盤で洗浄液の流量をバッドやブラシと合ったレベルに設定する

注意: 洗浄液の流量の設定は「洗浄液を設定する」の項参照

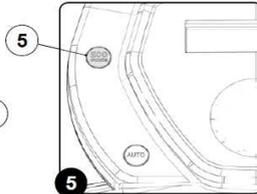
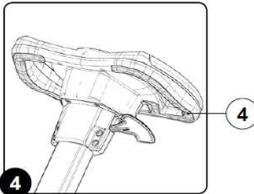


6. ハンドルのデッドマンスイッチ (図4④) を握ると本機が稼働します

7. 「オートマッチクECOモード」が選択されていると、デッドマンスイッチを握るだけでブラシヘッドモーターとバキュームモーターが作動し、洗浄液ポンプも作動してブラシに給水します

8. 作業開始後数mlは、洗浄液が出ているか、スクイジーが正しく吸水しているか確認してください

9. これでバッテリーが洗浄水がなくなるまで本機は稼働します



10. 洗浄能力を高めたいときは、以下の操作をして下さい:

- ハンドルのデッドマンスイッチを離す
- 「ECOモード」ボタン⑤を押して解除する (図5)

• 本機を後ろに傾けてブラシを浮かすと、スクイジーが回転して本機の前に出ます

• スクイジーが前に出たら本機を下ろして手前に引くと、残水を吸引できます



注意: 「ECO」のシンボルが消え、「A」のシンボルのみがディスプレイ右下に表示されます



注意: スクイジーを通常位置に戻すには、本機を若干前進させ、弧を描くようにやや左に向かって下さい

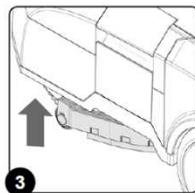
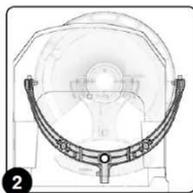
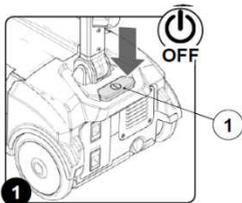
- 再度デッドマンスイッチを握って作業を再開する

11. 床面の残水を後進しながら吸引したいときは以下の操作をして下さい

洗浄のみを行う場合

洗浄のみで汚水回収しない場合は、以下の要領で行ってください：

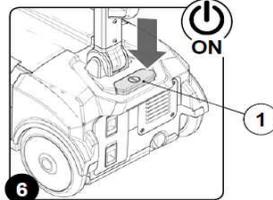
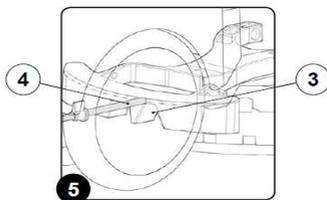
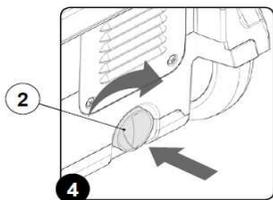
1. 電源スイッチ（図1①）で電源を切る
2. スクイジーを（図2）の位置に移動させて置く
3. 手でスクイジーの後部を持ち上げ、（図4②）のノブを押しながら時計回りに回してピンを押し出しスクイジーを固定する



注意：作業中は手のケガを防止し、酸・アルカリ性の洗剤から手を守るために手袋を着用して下さい



注意：スクイジーサポートの切込み（図5③）が、④のピンにかみ合うようスクイジーの位置を左右に調整すること



4. 電源スイッチを再度入れる（図6）
5. デッドマンスイッチを握って作業を開始する
6. 操作盤の「バキュームモーターON/OFFボタン」（下図7⑤）を押すと、約15秒後にバキュームモーターが停止し、（図8）のように液晶表示の右下の「O」が表示される
7. これで洗浄のみの操作がバッテリーが洗浄液がなくなるまで行える
8. 最初の数mは、洗浄液が給水されているか確認し、そうでない場合は調整することP23「洗浄液の調整」の項参照



注意：デッドマンスイッチを離すと本機の稼働は止まります

再度動かすときはスイッチを握れば作動します

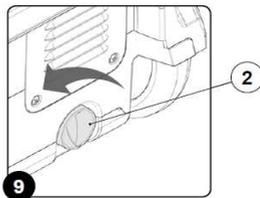
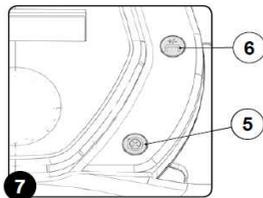


注意：浮かせたスクイジーを元に戻すには（図9②）のノブを反時計回りに回してピンを戻します

洗浄液を撒かずに洗浄を行う場合は、（図7⑥）のボタンを長押しすれば洗浄液ポンプは止まります

この状態では（図10）のように液晶表示に下線が表示されます

洗浄液を出したい場合は⑥のボタンを押し、水量はP23「洗浄液の調整」の方法で調整します



洗浄液の調整

洗浄液の吐出量の調整は下記の通りです:

1. 洗浄液タンクの洗浄液の量が作業に合っているか確認し、足りない場合は補充する
2. ブラシ、パッドが床に接地しているか確認
3. 電源スイッチでONにする(図1①)
4. ハンドルのデッドマンスイッチを握れば本機は稼働します
5. 稼働中に(図2②)のポンプボタンを押して洗浄液の流量を調整します

操作盤の②のポンプボタンを押すと、液晶表示に水平の線が出ます。さらにボタンを押していると小さな長方形が表示され、この数が水量を表しています(図3) 洗浄液の水量を3段階で調整できます

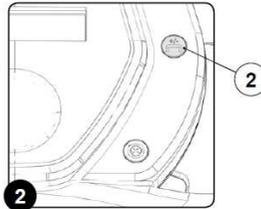
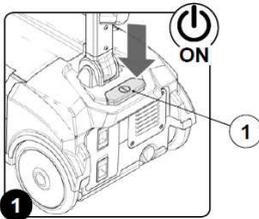
液晶表示に下線のみが表示されている場合は、洗浄液が出ていません
このモードは既に水があるか、吸水のみの作業に使います

②のポンプボタンを押すことで1段階づつ水量を調整でき、繰り返し押すことで、水量0～水量3まで設定できます

注意: ボタンを押すことで水量の調節ができますが、戻すことはできないので、適切な水量を選ぶまで繰り返し押してください

注意: ②のボタンを長押しすると、水量は0に設定されます(図4)

注意: 電源スイッチを切ると、洗浄液水量の設定は1(最小)に戻ります



オーバーフロー防止機構について

本機は汚水回収タンクの方が洗浄水タンクよりも大きいため、オーバーフロー防止機構を備えておらず、万一回収タンクが満水になった場合にはバキュームリッドの裏のフロートが上がってバキュームを止め、汚水がバキュームモーターに届かないようになっています

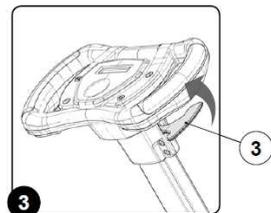
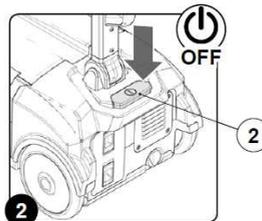
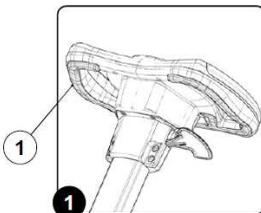
この場合、バキュームモーターの音がこもったようになります

この場合、以下の対処をして下さい:

1. デッドマンスイッチ(図1①)を離す
バキュームモーターも一定時間経過後に切れます
2. バキュームモーターが停止したら、電源スイッチを切る
3. スクイジーを床から上げる
4. コントロールハンドルバーを上げてコラムの角度を調整する



洗浄液タンクや汚水回収タンクに水が入った状態で、本機を立てないこと



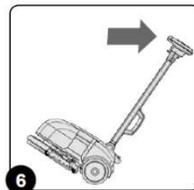
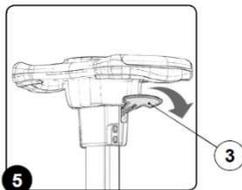
5. コントロールステアリングコラムを垂直位置にする (図4)

! **注意:** この操作をする際、本機に足を掛けないこと

6. ハンドルバーを垂直にし、ストップレバーを離して固定する (図5)

7. 本機を後ろの傾け、排水場所まで運び、汚水回収タンクを空にする (図6)

注意: 汚水の廃棄はその場所のルールに従い適正に行ってください



洗浄作業を終了する

作業を終了するときは以下の要領で行なって下さい:

1. ハンドルのデッドマンスイッチ (図1①) を離してブラシモーターと

洗浄液ポンプを止める

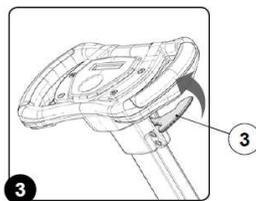
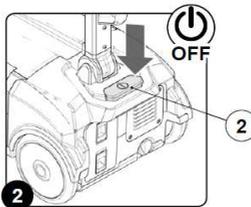
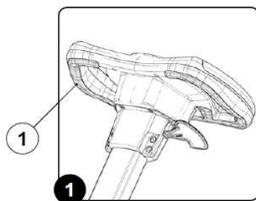
2. バキュームモーターも一定時間後に停止します

3. バキュームモーター停止後に電源スイッチで電源OFFにする

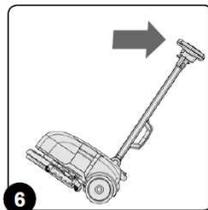
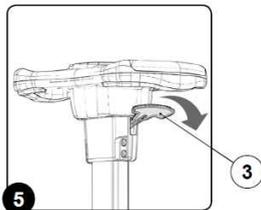
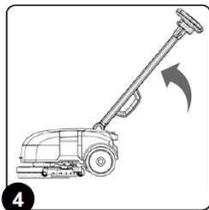
4. スクイジーを床から上げる

取扱注意

本体を倒立する際は、清水タンクと汚水タンクを必ず空にすること
故障の原因になります



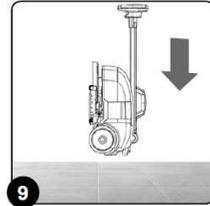
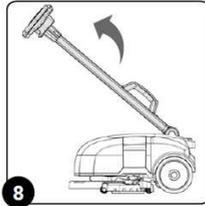
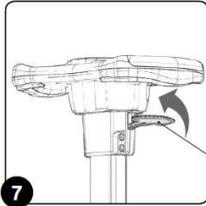
! **注意:** この操作の際、本機に足を掛けないこと



1. 保守メンテナンスが完了したら、所定の保管場所に本機を保管して下さい。
2. ハンドルバーを水平にし、本体を立てて保管すると場所を取りません

注意: 通行人など第三者が触れない室内に保管して下さい
 /!、本機を汚したり、傷つける恐れがあるものから遠ざけて下さい

注意: この操作の際、本機に足を掛けないこと



メンテナンス

推奨されるメンテナンス

メンテナンスの種類	作業終了後毎回	毎日	週に一回	長期使用しないとき	輸送の前後
汚水回収タンクの点検と洗浄	X	X		X	X
バッテリー充電 (1)		X			
バキュームカバーの点検と清掃		X		X	
ブラシの点検と清掃		X		X	
スクイジーの点検と清掃		X		X	
バキュームホースの清掃		X		X	
洗浄液フィルターの点検と清掃			X	X	
洗浄液タンクの点検と清掃			X	X	X

Note: (1) 作業中に充電残量を確認のこと

汚水回収タンクの点検と清掃

汚水回収タンクの点検と清掃は以下の手順で行って下さい：

1. 本機を排水できる場所に運ぶ



注意：汚水の廃棄はその場所のルールに従い適正に行ってください

2. 電源をOFFにし、スイッチを上げて下さい

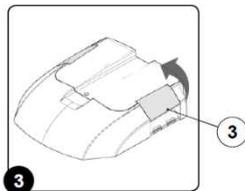
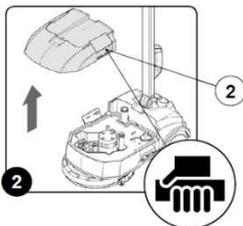
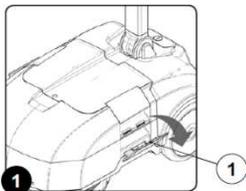
3. タンクストップレバー（図1①）を矢印の方向に外して下さい

4. タンク両脇のハンドル②を持ってタンクを持ち上げ、静かに床面に置いて下さい（図2）。



注意：手の保護のため手袋の着用を推奨します

5. パキュームカバーストップレバー③を外す

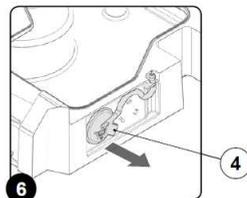
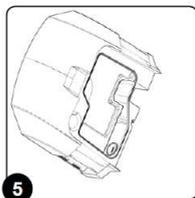
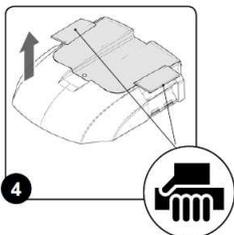


6. レバーを持ってパキュームカバーを外し、静かに床に置きます（図4）

7. 汚水回収タンクを排水します（図5）

8. （図6④）のキャップを外して汚水を排出します

9. 流水で内部を洗い、必要ならへら等でタンクの底に溜まったスラッジを掻き出します



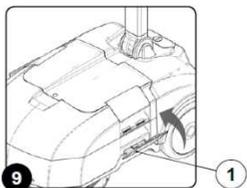
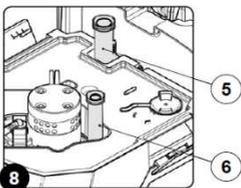
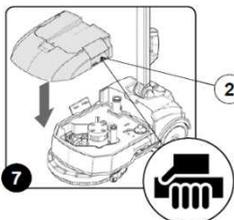
10. キャップ④を閉める

11. 汚水回収タンクを、パキュームモーター上のパキュームホースインレット⑤とスイッチのパキュームホース⑥を挟まないように、タンク両脇のハンドルを使ってかぶせる（図7と8）。



注意：汚水回収タンクを戻す前にタンクのキャップが開まっているか確認して下さい

12. 両脇のタンクストップレバーを上げてタンクを固定する（図9①）



バキュームカバーの点検と清掃

バキュームカバーのフロートを月一回程度清掃することで、本機をより長く使用することができるので、習慣付けて実行して下さい

1. 本機を排水できる場所に移動する



注意: 汚水の廃棄はその場所のルールに従い適正に行ってください

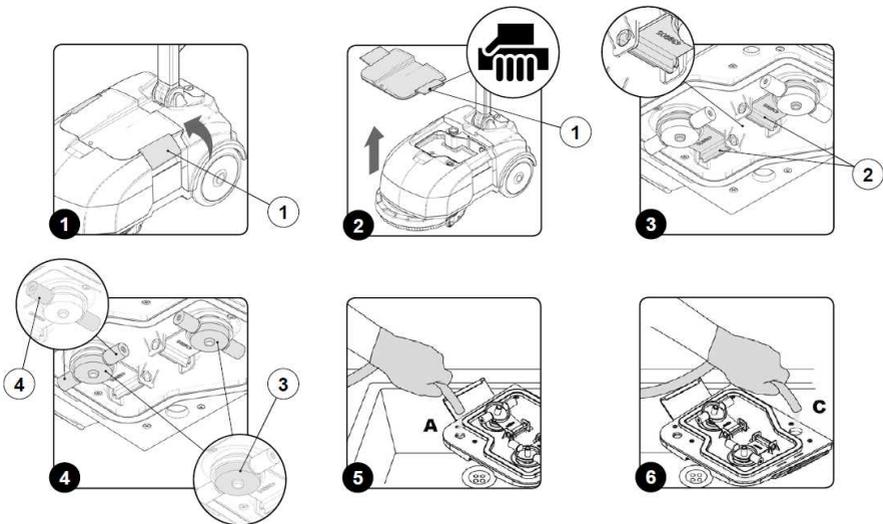
2. 電源を切り、コラムを垂直の位置で固定して下さい
3. 両脇のバキュームカバーストップレバー①を外し、カバーを持ち上げて外す(図1)

注意: 手の保護のため手袋の着用を推奨します



4. 外したバキュームカバーを裏返し、流水と布で優しく汚れをながす、とくにフロート(図3②)の支点部分から汚れを取り除く

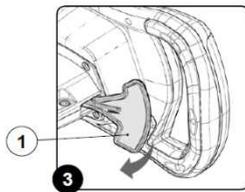
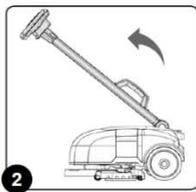
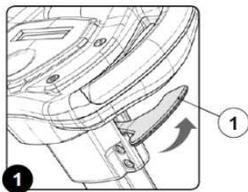
5. 流水と布でセントラルフロート(図4③)とフサイドフロート④の汚れを取除く
6. 汚水コンベヤー部分も水洗いする、汚水入口(図5A)と出口(図6C)をよく洗う
7. 汚水コンベヤーコンパートメントも流水でよく洗う(図6).
8. よく水分をぬぐい、外したのと逆の順番で本機に取り付ける



ブラシの点検と清掃

ブラシを清潔に保つことで、清掃能力を保ち、ブラシモーターの寿命も伸ばすことができます：

1. 本機を保守メンテナンスできる場所に運ぶ
2. 電源を切り、タンクの水が入っていないか確認する
3. ステアリングコラムコントロールストップレバーを引いてコラムを水平にする (図1①)
4. コラムが水平になったらレバーを離して固定する(図3)



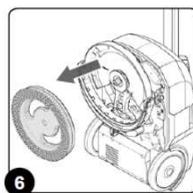
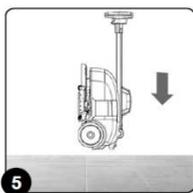
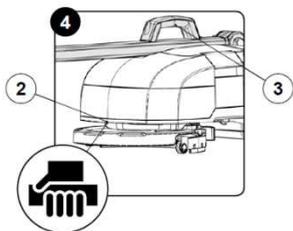
取扱注意

本体を倒立する際は、清水タンクと汚水タンクを必ず空にすること
故障の原因になります

5. 本機の前線の取っ手 (図4②) かハンドル (同③) を持って床に立てる (図5)
6. 本機からブラシを取り外す (図6)
7. 流水でブラシを洗ってゴミを取り去り、ブラシの摩耗をチェックする (ブラシの毛の長さが10mm以下なら交換)
8. 洗浄後のブラシを本機に取り付ける

注意: 本機が誤って動かないようハンドルバーを固定すること

警告: 作業者は保護手袋の着用して下さい

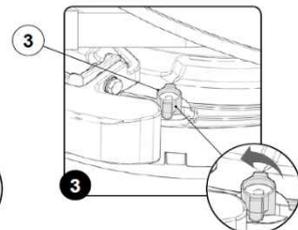
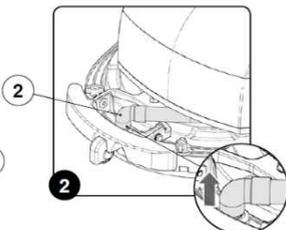
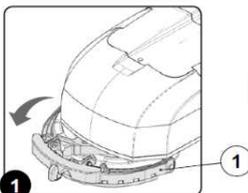


スクイジーボディの点検と清掃

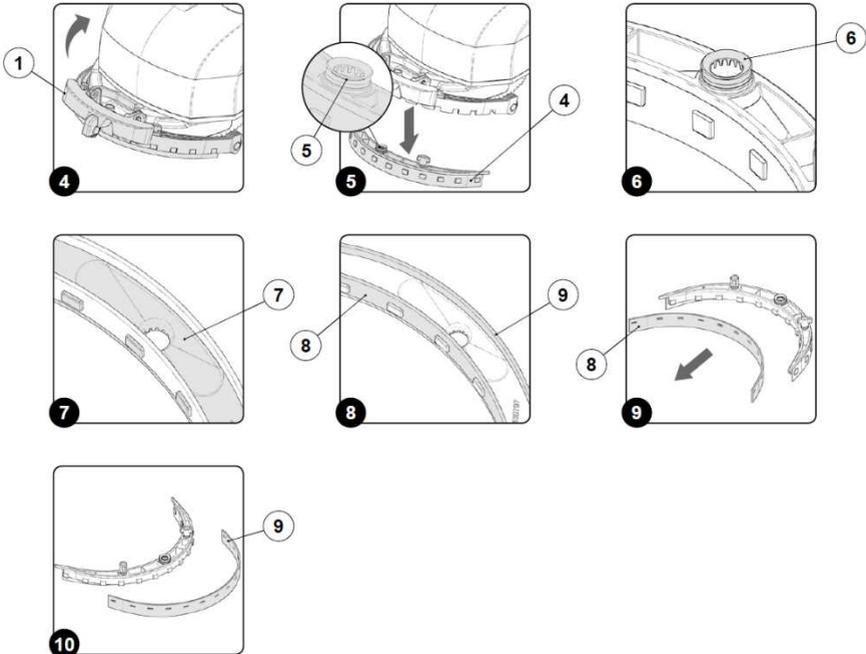
バキュームの通路全体を清潔に保つことで、汚水吸引力の保持とバキュームモーターの保護ができます。スクイジーの点検と清掃方法は下記の通りです：

1. 本機を保守メンテナンスできる場所に運ぶ
2. 電源を切り、タンクの水のないことを確認する
3. スクイジー部を反時計回りに回して本機の前に出す (図1①)
4. スクイジーボディのバキュームノズルからバキュームホース②を外す (図2)
5. ウィングナット③を左に90°回す (図3)

注意: 作業者は保護手袋の着用して下さい



6. スクイジーアタッチメント (図4④) を持ち上げる
7. スクイジーコネクター④のスロットからスクイジーを外す、バキュームノズルのシール⑤をなくさないよう注意 (図5).
8. 流水と柔らかい布でバキュームノズルチャンバーをよく洗う (図6⑥)
9. スクイジーボディのバキュームチャンバーを流水と柔らかい布で洗う (図7⑦)
10. 流水と柔らかい布で、前後のスクイジーラバーをよく洗う (図9)
11. フロントラバーの (図9⑧) 摩耗を確認し、床面に接する部分が摩耗していたら交換する (ラバーは入替えて4面使用できます)
12. リアラバー (図10⑨) の摩耗を確認し、床面に接する部分が摩耗していたら交換する (ラバーは入替えて4面使用できます)
13. 外したのと逆の順序でスクイジーユニットを組み立てる



バキュームホースの点検と清掃

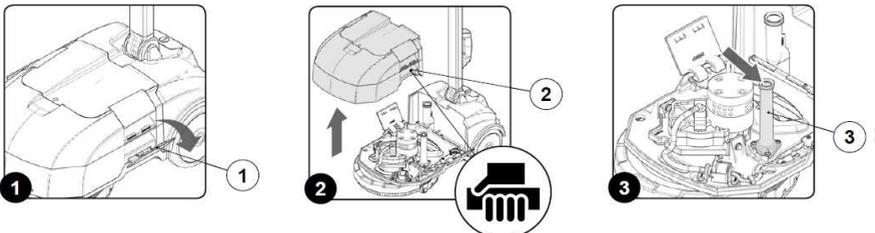
バキュームホースを定期的に点検、清掃することで吸引力の保持ができます：

1. 本機を保守メンテナンスできる場所に移動する

注意：保守メンテナンスは、その場所のルールや諸規制に照らして問題のないところで行って下さい

2. 電源を切り、タンクに水のないことを確認して下さい

- (図1) 本機両脇のタンクストップバー①を外側に外す
4. (図2) 取っ手②を持って洗浄液タンクを外し、静かに床に置く
5. (図3) バキュームホース③に矢印のようにホースを差し込み、流水で洗う
6. 洗浄後、逆の順序で洗浄水タンクを載せて組み立てる



洗浄液フィルターの点検と清掃

洗浄液フィルターをこまめに手入れすることで、洗浄能力を保つことができます。

1. 本機を保守メンテナンスができる場所に移動する

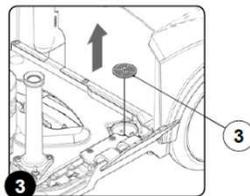
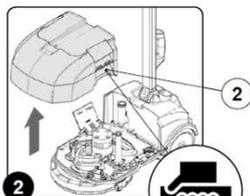
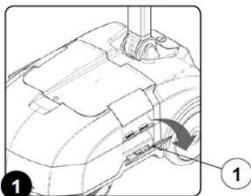
！！

注意：保守メンテナンスは、その場所のルールや諸規制に照らして問題のないところで行って下さい

2. 電源を切り、タンクに水がないことを確認して下さい

本機両脇のタンクストップレバー①を外側に外して下さい（図1）

4. 取っ手②を持ってタンクを持ち上げ、静かに床に置いて下さい（図2）
5. （図3③）の洗浄液フィルターカートリッジを外し、流水で洗って下さい、損傷があれば交換して下さい
6. 洗浄後、逆の順序で組み上げて下さい

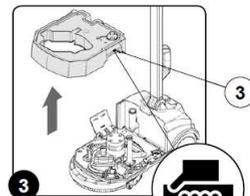
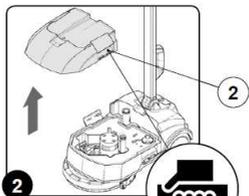
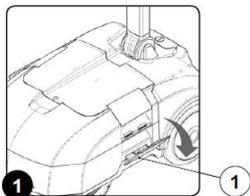


洗浄液タンクの点検と清掃

洗浄液タンクを清潔に保つことで、床清掃を清潔に行うことができます。

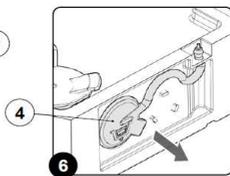
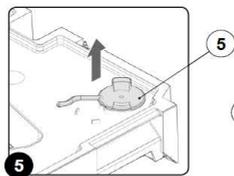
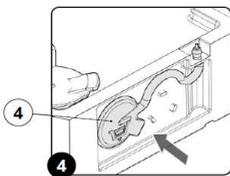
1. 本機を保守メンテナンスできる場所に移動する
2. 電源を切り、タンクに水のないことを確認する
3. 本機両脇のタンクストップレバーを（図1①）外側に外す

4. （図2②）汚水回収タンクの取っ手をもち、持ち上げて外す
5. 洗浄液タンク（図3③）も持ち上げて外し、静かに床に置く



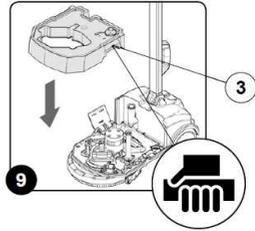
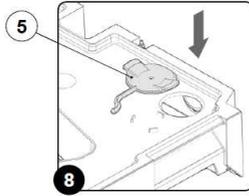
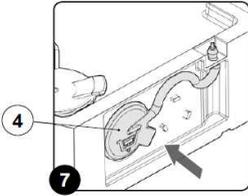
1. 洗浄液タンクのキャップ（図4④）が正しく閉まっているか確認
2. （図5⑤）の洗浄液注入口のキャップを外す
3. タンクを空にし、流水で洗う

4. タンクの排水キャップを外し完全に排水する（図6④）
5. タンクの内部を流水で洗い、必要ならヘラ状のものでタンク底のスラッジを取り去る



6. （図7④）タンク後部の排水キャップをはめ込む
7. （図8）洗浄液注入口にキャップをはめ込む

注意：洗浄水タンクに水を入れる際、汚水回収タンクを空にする習慣を付けるとよい



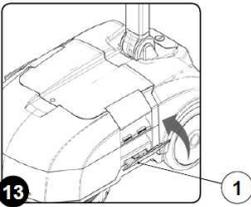
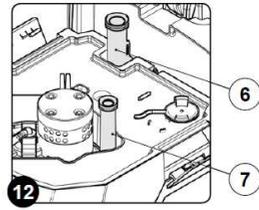
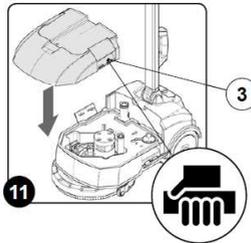
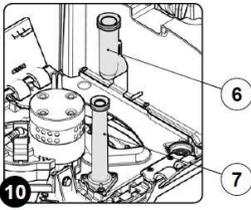
8.汚水回収タンクを、バキュームモーター上のバキュームホースインレット⑦とスクイジのバキュームホース⑥を挟まないように、タンク両脇のハンドルを持ってかぶせる(図9と10)。



注意: 排水キャップが正しく閉まっているか確認すること

9.汚水回収タンクを洗浄水タンクの上に乗せる。バキュームホースインレット⑥とバキュームホース⑦を挟まないように気を付ける(図11と12)

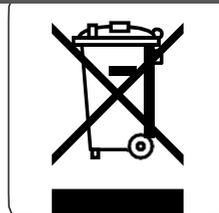
8. ストップレバーを開けてタンクを固定する(図13)



本機の廃棄について

本機を廃棄する場合は、産業廃棄物としてその地域の諸規制に沿って処分して下さい。本機はリサイクル可能な素材で構成されています。なお、廃棄にあたって下記の部品は取り外して下さい：

- ブラシ
- パッド
- バッテリー



トラブルシューティング

この項は、本機の使用中に発生しやすいトラブルと対応をまとめています。この対応で解決しない場合、弊社サービスまでご連絡下さい。

不具合	考えられる原因	対応法
本機の電源が入らない	電源スイッチが押されていない	電源スイッチを押してON
	電源ONの際に操作盤の液晶表示にエラー警告が出ていないか確認	エラー表示がある場合、使用をやめ、弊社サービスに連絡
	バッテリーが正しく挿入されているか確認	バッテリーを正しく挿入する
	バッテリーの残量を確認	残量が少ない場合、バッテリーを充電する
バッテリーが正しく充電されない	充電器のコードが正しくソケットに取付けられていなかった	コードのプラグが充電器に正しく取付けられているか確認
	充電器のコードが正しくコンセントに接続されていないか確認	コードのプラグがコンセントに正しく挿されているか確認
	コンセントの電力が充電器仕様と合っていないか確認	シリアル番号ラベルに表記の使用と電源が合っているか確認
	充電器のLEDが点滅している	点滅の意味を充電器の取扱説明書で確認
本機が作動しない	バッテリーの残量を操作盤の表示で確認	残量が不足していたら充電を行う
洗浄液が出ない、少量しか出ない	作業の内容と洗浄液の量が釣り合わない	洗浄液の量を確認、適正な水量に調整
	洗浄液フィルターが詰まっている	洗浄液フィルターを確認、詰まっていたら流水で洗浄

不具合	考えられる原因	対処法
本機が正しく床洗浄しない	電源が入っていない	電源を入れる
	洗浄液の量が適切でない	洗浄液を補充する
	洗浄液、ブラシ、スクイジーなどの設定が適切でない	設定を確認する
	ブラシが正しく本機に固定されていない	ブラシをしっかりはめ込み固定する
	ブラシの選択が汚れに合っていない	汚れと床の性質に合ったブラシを選択する
	ブラシの毛が摩耗している	ブラシの毛の長さが10mm以下なら交換する
スクイジーが床の汚水を吸水しない *注 1	バキューム通路が詰まっている、破損している	スクイジーのバキューム通路が詰まっているか確認する
		バキュームホースが正しく取付けられているか確認、詰まりや破損を確認
		バキュームカバーの詰まりを確認
	排水キャップがしっかり閉まっていない	汚水回収タンクの排水キャップを確認
	バキュームカバーが正しく取まっていない	バキュームカバーが正しく取付けられているか確認
多すぎる泡が立つ	低発泡性の洗剤でないものが使われている	低発泡性の洗剤か確認 必要なら少量の消泡剤を使用
	床が汚れていない	洗浄液タンクの洗剤を薄める
本機が正しく吸引しない	汚水回収タンクが満水	汚水回収タンクを排水する
	バキューム通路が詰まっている	バキュームの通路を確認 詰まっていたら洗浄・清掃
	バキュームのフロートが詰まっている	フロートおよびフロートの支点を洗浄・清掃

*注 1 バットの厚み 20mm以上の厚み場合（新品時等）スクイジーの追従や吸水性能に影響がある場合がございます。バット台（OP）のご使用については事前に確認をお願いいたします。

ブラシの種類について

ポリプロピレンブラシ (PPL)

あらゆる床に使える汎用タイプで、摩耗に強く、50℃以下の温水でも使用できます。ポリプロピレンは吸湿性がないので、洗浄作業で濡れても性質が変わりません。

ブラシの毛の太さによる違い

ブラシの毛が太くなれば、より腰が強くなり、普通の床に加え、継ぎ目のある床でも使えます。

表面に凹凸のある床では、柔らかいブラシの方が凹凸に入り込むので推奨されます。ブラシの毛が短くなった場合、腰が強くなり、凹凸に入り込まなくなります。この場合、大き過ぎるブラシと同様、ブラシが跳ねることがあります。

機種名	ブラシの数	品番	ブラシタイプ	Ø 毛の直径	Ø ブラシの径	ノート
パワーモップ Vispa XS	1	CO441041	PPL	0.2	280	PPL ブラシ(OP)
	1	CO439929	PPL	0.3	280	PPL ブラシ(STD)
	1	CO439930	パット台			(OP) 280mm 11" PAD 使用

* パットを使っでの洗浄については事前に動作確認をお願いいたします。
本機の標準仕様は「CO439929 PPLブラシ0.3」になります

その他の消耗品・交換部品

品名	品番	交換のめやす
スクイジーラバー フロント LATEX	CO439839	角が丸くなったら交換
スクイジーラバー リア LATEX	CO439841	角が丸くなったら交換
バッテリーパック LI-ION XS	CO440141	
充電器 XS JP PSE	CO441455	
洗浄水 (清水) フィルター VISP XS	CO439929	破れ、損傷があれば交換



EC 適合の宣誓

The undersigned company:

Comac S.p.A.

Via Maestri Del Lavoro, 13

37050 Santa Maria di Zevio (VR)

Declares under its sole responsibility that the products

FLOOR SCRUBBING MACHINE mod. Vispa XS

comply with the requirements of the following Directives:

- 2006/42/EC: Machinery Directive.
- 2004/108/EC: Electromagnetic Compatibility Directive.

They also comply with the following standards:

- EN 60335-1: Household and similar electrical appliances - Safety. Part 1: Generic standards.
- EN 60335-2-72: Safety of household and similar electrical appliances. Part 2: Specific standards for automatic machines for floor treatment for commercial and industrial use.
- EN 12100-1: Machine safety - Fundamental concepts, fundamental principles for design - Part 1: Basic terminology and methodology.

- EN 12100-2: Machine safety - Fundamental concepts, fundamental principles for design - Part 2: Technical principles.
- EN 61000-6-2: Electromagnetic compatibility (EMC) - Part 6-2: Generic standards - Immunity for industrial environments.
- EN 61000-6-3: Electromagnetic compatibility (EMC) - Part 6-3: Generic standards - Standard emission for residential, commercial and light-industrial environments.
- EN 62233: Household and similar electrical appliances - Electromagnetic fields - Methods for evaluation and measurement.

The person authorised to compile the technical file:

Mr. Giancarlo Ruffo

Via Maestri Del Lavoro, 13

37059 Santa Maria di Zevio (VR) - ITALY

Santa Maria di Zevio (VR), 07/01/2015

Comac S.p.A.
Legal representative
Giancarlo Ruffo

Manufacturer:

FIMAP S.p.A.

Via Invalidi del Lavoro, n°1

c.a.p. 37059 - S. Maria di Zevio (VR) - Verona - Italia

Tel. +39 045 6060411 - Fax. +39 045 6060417

E-mail: fimap@fimap.com

Web: www.fimap.com

Mandatory:

Comac S.p.A.

Via Maestri del Lavoro, n°1

c.a.p. 37059 - S. Maria di Zevio (VR) - Verona - Italia

Tel. +39 045 8774222 - Fax +39 045 8750303

E-mail: com@comac.it

Web: www.comac.it

株式会社リンレイ 総合企画開発部
〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-13
Tel: 03-3543-2427
URL <https://www.rinrei.co.jp>

